

■児童・生徒の学力の状況

OR7全国学力学習状況調査の結果では、調査学科の国語、算数、理科の3科目すべて、全国平均を上回っていることがわかった。  
 限られた字数で自分の考えをまとめ書くこと、取り出したデータを活用し、思考判断する問題に慣れていない、等の課題が挙げられる  
 ○算数を中心に、問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたりする活動が得意な子と苦手な子の差が大きくなってきたことが見えてきている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○問題解決型・探究型の授業において、ICT機器を活用するよう努める。GIGAスクール構想における指導を推進する。  
 ○児童の習熟の程度に応じたクラス別単位での授業展開では、担任、少人数算数担当、学力向上専門員間の組織的な指導体制をさらに強化させる。  
 ○本時のめあての達成について、児童が自身の学習活動を客観的にみた振り返りを徹底して行う必要がある。  
 ○教科書分析を行い、児童用教科書に指導内容等の書き込みを入れながら、読み解く力の育成を図る。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○読み解く力の育成を指導の重点とし、Input・Think・Outputを意識した学習活動と意図的計画的に設定する。  
 ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をめざし、児童一人一人の実態に応じた学習活動を展開し、児童が自己決定をしながら課題解決に取り組む場を設定する。  
 ○板橋区授業スタンダードの徹底を図り、授業の導入で学習の目標（めあて・ねらい）を明確に示し、授業の終わりに子ども自身に学んだことを振り返る場を設ける。  
 ○個別最適な学び、及び協働的な学びの実現に向け、特に一人1台のタブレット型PC、ICT機器を活用した学習活動を展開する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底及びスタンダードSの取り組み	視点2 読み解く力の育成	視点3 自己調整学習の取り組み
○児童が具体的にイメージがもてるように、「Outputなめあて」を板書で提示する。 ○自分の考えを深め、書く時間を確保する。 ○学習計画を立てて、自ら学習方法や表現方法を選んで学習を進めていく場の設定を工夫する。 ○ペアやグループによる協働的に学ぶ時間を確保する。	○教科書分析を行い、児童がつまづきそうな箇所や押さえるべき言葉等に書き込みを入れ、発問及び授業展開を構築する。 ○教科書を読む際、読む視点を明確に示し、児童自身に読みとらせ、言語化させる。 ○本時のねらいを達成するにあたり、基礎的読解力の視点を適切に入れる。 ○授業の中で、押さえるべき用語・記号等は全ての児童が理解できるよう、確認する。	○各教科等の既習事項を活かしながら「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ表現」の探究型授業を行い、児童が主体的に取り組めるような学習過程を設定する。 ○大谷口小自己調整学習6年計画に基づき、学習計画を立てて、自ら表現方法を選択するなど、教師が教える授業から子供が学ぶ授業へ、指導観のモデルチェンジを進めていく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリア内で、中学校の学校紹介などを、オンラインで行うなどの活動を通して、連携を深める。 ○社会、生活、総合的な学習の時間などの教科を通し地域について学び、郷土愛を育成する。	○教育課程作成にあたり、学びのエリア内で単元配列表の中の各教科とのつながりや小中9年間の学びの確立を図る。 ○理科や社会、総合的な学習の時間を通して、身近な社会の課題を自分のこととして捉え、課題意識をもって解決していく学習過程を工夫する。	○児童が必要に応じていつでもタブレット型端末を活用できるように各学級における活用頻度を上げる。 ○タブレット型端末を活用して、考えの共有や作品の発表等、協働的な学びにつなげる。